

# 「4月の介護保険改正への見解」決める

**全国から181名参加 神戸で支部代表者会議**

10月27日午後、2012年度の支部代表者会議が兵庫県神戸市内で開かれました。4月の介護保険改正に対する「家族の会」の見解を決めることと、これからの取り組みを考えることが主な内容でした。46支部の代表者全員と、支部のない沖縄も含めてすべての都道府県から総勢181名の会員が参加しました。

櫻井あかね本部事務局員の司会で始まり、兵庫県支部酒井邦夫代表が歓迎あいさつ。議長に山添洋子（京都）、木寺喜義（大阪）の両氏を選任後、高見国生代表理事があいさつ。東日本大震災から1年7ヵ月の時点で、阪神・淡路大震災を経験した神戸で開催する意義を強調しました。そのうえで、「6月の厚労省の『今後の認知症施策の方向性』文書とオレンジプランは、介護保険が使いにくくなった状況で、一条の光を与えてくれた。しかし、8月の社会福祉と税の一体改革法成立で増税だけは決まったが福祉の改善は見えない。温かい風を強くするのか、冷たい風が強くなるのかは国民の態度で決まる。また、社会の動きはどうなろうと、毎日の介護への勇気をわかせるために、『家族の会』の3本柱の活動が重要」と述べました。

田部井康夫介護保険・社会保障専門委員長が、支部から寄せられた意見に基づき、提案していた「見解（案）」を一部訂正して再度提案。勝田登志子副代表が今後の取り組み、高見代表が厚労省文書の解説と対応方針を説明しました。これらについて、千葉県支部広岡成子代表など14支部の15人が意見を述べたあと、田部井委員長がまとめを行い、「見解（案）」は異議なく拍手で確認されました。（8、9ページに全文掲載）

ここで休憩になりましたが、いつものようにロビーは各支部が持参したお土産で全国名産品大会の様相を呈しました。

休憩後は、専門委員会報告でした。村上敬子本人支援委員長は、富山での本人交流会を報告し、

本人グループ、家族グループが作成した大きな絵手紙を示してそれぞれの訴え

を紹介しました。荒牧敦子人権擁護委員長は、警察庁が、一定の病気等に係る運転免許の在り方について「家族の会」にヒヤリングに来たことについて報告しました。そのほか、若年期・片山禎夫、会報・鎌田松代、国際交流・吉野立委員長も報告。調査研究は水流涼子委員長と鈴木和代委員が報告しました。

## ●災害救援基金執行要領も決まる

続いて、来年10月12日、13日に鳥取県米子市で開催する支部代、全研について吉野理事（支部代表）から参加の呼びかけがありました。これに合わせて支部が行う鳥取認知症フェスティバルの内容も発表されました。また、2014年秋の支部代、全研の開催が決定している青森県支部石戸育子代表が決意を表明しました。

三木敦子事務局主任が会計の中間報告を、小野貴志主任がその他の実務報告を行いました。杉山孝博副代表が、毎年15ヵ所程度で開催している杉山Dr.の三つの講座（認知症の基礎、医学、ターミナル）について述べ、来年度も認知症への理解を進めたいと思いを語りました。

なお、昨年 of 支部代での確認に基づいて8月の理事会で策定された、『「家族の会」災害救援基金執行要領』が小川正事務局長から報告されて、確認されました。内容は、地震、風水害などの災害により会員および家族の生命、身体や家屋に被害があった場合、見舞金を支払うというものです。当面の財源は昨年の東日本大震災義援金の残余金ですが、不足するときは新たに義援金を募ることとされています。



会場のANAクラウンプラザホテル神戸に総勢181名が参集

# 会員さん からの お便り



7月号 石川県Sさんの  
「イライラも限界」を読んで

## 同じ大変さを抱えて

大分県・Hさん 71歳 女

認知症の夫を介護しています。ケアマネよりぽ〜れぽ〜れを貸していただき7月号を読みました。それで、同感したというより、私とまったく一緒の方のお便りがありました。イライラも限界という事を書いていた石川県の方のお便りです。私の夫は今年の10月で73歳になりました。年齢は違いますが、後はまったく同じです。我が家は気に入らなくなると暴力があります。

私は今、事故で入院していますが、ケアマネさんやヘルパーさん、夫の友人たちのおかげで退院もまぢかになりました。自宅に帰った生活を思うと不安が一杯です。

## 介護経験を生かしたい

石川県・Kさん 38歳 女

母が亡くなりました。若年性アルツハイマー型認知症でした。母の事を思うと涙がとまりません。病気は進行し、会話もほとんどできませんでしたが、私の話が何となく伝わっているのだと感じていました。ただ、返す事が出来ないのだと…。「ママの言いたい事は分かるとるよ」と言うのとどことなく安心した表情を見せてくれました。

母の病気を先生から伝えられた時は、私

しかいない母を支える事が出来るのかと思いましたが、沢山の方にお世話になり今まで介護を続ける事が出来ました。

母と祖母の介護をし、2人の成年後見人にもなりました。2人の介護をきっかけに今は訪問介護の仕事をしています。家族が受けてもらいたい介護、自分が受けたい介護を支援していけたらと強く思っています。

天国なんてないのかもしれませんが。それでも先に亡くなった祖父母や父にも会え、アルツハイマー病のないところだと思いたいです。

## 不老不死のエキス

奈良県・Nさん 女

9月号のほっとコーナー、森浦真理さんの文を読み、『「家族の会」には不老不死のエキスあり。それは認知症。』

思わずつぶやきました。

本部の皆様、支部の皆様、ご苦労様です。

## やさしい嫁も今は怖い嫁

大分県・Mさん 61歳 女

2年2ヵ月前、抗がん剤治療中に義母との同居が始まった。義父は自分で入院の準備をし、入院。20日程で他界した。大分より駆けつけると義母はうす暗い部屋でテレビを見ていた。その状況を見た時、認知症に足を踏み入れかけていることを知った。託された義母を“元気にする”ことに私自身副作用でボロボロの身体であったが、全力投球した。

介護職であった為、経験と知識があり助けられた部分はあったが、寄り添う難しさを痛感する日々が続いた。脳トレと規則正しい生活リズムとバランスのとれた食事を続け、デイサービスなどの力を借りながら



第28回  
全国研究  
集会

# 今一度、認知症の人と 家族に目を向けよう

をテーマに900人が  
神戸につどう



小雨降る異国情緒豊かな神戸で、10月28日に第28回全国研究集会が兵庫県支部の担当で開催されました。軽快な語りで高見国生代表のあいさつが始まり、厚生労働省認知症虐待防止対策推進室・勝又浜子室長、兵庫県副知事、神戸市副市長の祝辞に続き、精神科医の前田潔神戸大学名誉教授の講演。4人の事例発表。勝又室長をはじめ5人によるシンポジウムに熱心な質疑応答が交され、満足感に満ちた顔・顔・顔で閉幕しました。

講演では、精神科病院への入院が増える背景と「今後の認知症施策の方向性について」のケアの流れを変える・認知症ケアパスを理解することができました。

事例発表では、兵庫県の男性介護者、谷村忠之さんは、妻は精神科で認知症とは診断されず投薬を続け悪くなる一方だったが、認知症専門医による抗精神病薬の減量・中止により良い方向に向かってきたと発表。

岩手県大船渡市で電話相談をしている今野光子さんは、東日本大震災で多数の傷病者が出た緊迫した状況の中、多くの相談を受け、その時の教訓を語り継がなければならないと発表しました。

青森県のケアマネジャー泉早苗さんは、高齢化率30%を超え社会資源や認知症の理解や支援に乏



本当に必要な介護とは何かを討論したシンポジウム。左から、南條、勝又、藤原、酒井、河西、高谷、前田の各氏

▲全国から、介護家族、専門職、学生等900人が参加し熱気あふれる会場

▶家族への支援の重要性を話す講師の前田氏



しい小さな町で、地域に出向いて啓蒙活動に努力されている温かい話でした。

京都府・東宇治北地域包括支援センターの丸山貴司さんは、宇治市認知症ケアネットワークの構築に取り組み、認知症ケアを標準化し、事例発表と検討会を続けて今では専門職の研鑽の場として定着してきたと発表しました。

シンポジウムは、「認知症の人に本当に必要な介護を確認しよう」をテーマに、兵庫県支部南條静子副代表の進行で行われました。

勝又室長から討論に先立ち、2014年から始まる「オレンジプラン」の説明があり、介護中の同県支部酒井邦夫代表は、経験を交え若年性認知症の在宅介護支援の必要性を訴え、介護家族の河西美保支部副代表は、介護に対し介護保険の使いづらさを、特養神港園施設長高谷育男医師は、要介護認定や若年性認知症への現制度の限界を指摘しました。兵庫県高齢社会課の藤原恵美子課長補佐からは、県行政で医療と介護と地域連携を課題に取り組んでいる現状等を切り口に論議が展開されました。

「必要な介護」への思いは多く、反面まとめにくいテーマでしたが勝又室長を交えての討論は有意義でした。

全体としては「オレンジプラン」への期待が大きく、勝又室長は「絵に描いた餅にならないよう進めていく。そのためにも『家族の会』はインフォーマルサービスとして活躍してほしい」と結びました。

（編集委員 坂口義弘）

# いきいき 「家族の会」 まちでも村でも

## 「手作り」記念講演会

青森県  
支部

9月9日、「全て手作り」の支部記念講演会を2部構成で行いました。第1部は、80代の自分を想像しながら松倉典子世話人が「地域の支え合い」について講演しました。第2部は、泉早苗さんの脚本・演出で会員

が寸劇「つなげよう支援の輪」を演じました。

「会場で2度練習しただけとは思えないほど真に迫った演技で素晴らしかった。また、前田栄治・美保子夫妻（世界アルツハイマーデーのリーフレット・ポスターで紹介）の言葉は参加者の心に響いたと思います」と石戸育子支部代表が支部会報で紹介しています。

## 「晴れ男と雨女」の楽しい リフレッシュ旅行

神奈川  
県支部

9月2日、激しい雨の中を湯河原温泉のホテルへ。翌日は清々しい風が吹く好天気恵まれ、真鶴岬で雄大な海を眺めながらの散策。11組のご本人と家族、杉山孝博副代表、世話人、サポーターを含め36名の太

旅行は、楽しく充実していました。世話人は1ヵ月前に下見をし、打ち合わせを重ね、分刻みの日程、ご本人のサポート担当等の役割分担資料を作成しての旅行でした。そのおかげで、ご本人たちはなかなか出来ない温泉旅行を楽しみ、家族は、日頃の介護の厳しさを忘れてのんびりと贅沢な旅ができたとのことでした。

## 「若年性認知症のつどい」

福岡県  
支部

9月1日、今年度2回目のつどいが福岡市市民福祉プラザで開かれました。参加者は、ご本人1名と介護家族14名を含めて25名。このつどいには、子世代介護者の参加が増えており、初参加の20代の娘さんに

介護経験者から、ねぎらいや多くの助言がありました。「これからどうなるの」「母が父の病気を受け入れられない」など参加者が思いを語り合い、時間が足りず終了後も場所を変えて話し合いました。世話人の村上智奈美さんは「体験の中から得た助言に助けられることがあります」と、つどいの報告を締めています。

## 「全国一斉街頭啓発活動」

広島県  
支部

9月15日、県内4ヵ所で関係機関からの参加も得て総勢163名でリーフレット配布を行い、広島市では、手づくりのアルツハイマーデーポスターの横断幕と新調されたオレンジの幟に囲まれ会員のお孫さんも大活

躍でした。（写真右）

三原市の川北和子さんは「今年は、お揃いのオレンジTシャツで明るい雰囲気になり声もよく出ていた」と話していました。



## 国際交流委員会発 韓国 の巻

### 「ケアでつながる地球家族」

■李さんの施設を訪ねて一愛と尊敬をこめて最期まで—  
韓国アルツハイマー協会の代表、李聖姫（イ・ソンヒ）さんをソウルに訪ね、創設された4つの施設を案内していただきました。

その中のひとつが清岩老人療養院、重度の介護認定を受けた70人の方が入所されています。病状が悪化すると、病院へ搬送されますが、回復が困難な場合は李さんが早く施設に戻るよう働きかけ、より自然な形で苦痛を和らげるためのケアを行い、毎年20人程の方を看取っているそうです。韓国での介護や

看取りに関する状況は近年大きく変化しています。2003年に42%だった家庭や施設での看取りが2011年には20%に減少し、病院での看取りは45%から68%に増加しています。その理由として、家族介護力の低下、施設や在宅死の死亡診断書発行の難しさ、また病院が葬儀場を併設していること等があげられるとのことでした。

李さんの案内で病院併設の葬儀場を訪ねましたが、病院とは屋根続きで、館内では韓国伝統の死装束や棺が売られ、黒いスーツ姿の職員が葬儀の準備中でした。親の養護に対する考え方も変わり、高齢者ケアも福祉の措置から介護保険制度へと大きく転換しました。変化の波は、李さんの施設にも押し寄せていますが、「お年寄りたちを最期まで尊敬をこめて温かく見守りたい」と優しいまなざしで語る李さんの言葉に、いつの時代にも変わらないケアの原点を感じました。（国際交流委員 鷲巣典代）





仲間と出会い  
話したい

今月の本人 中村成信さん（神奈川県） 後編

6年前に万引き事件をきっかけにピック病と診断を受けた中村成信さん（62歳）。今月は働くことへの思いを紹介します。お話を聞いていて、国が出したオレンジプランの若年性認知症の人への就労施策が、早く進んでいくようになってほしいと思いました。（編集委員長 鎌田松代）

働いて社会貢献したい

●行くところがない

仕事ができないことは、つらかったです。いつかは定年になって……。と思っていたのにくびになり行くところがなく家にいる。ずっと家にいることがつらかったです。

外で飛び回るのが好きだったのに出られない、仕事ができない、行くところがないことがこんなにつらいこととは思わなかったです。家族に申し訳ないという気持ちより、働いて社会に貢献していたひとりだったのに、できないつらさがありました。

●就労支援事業に参加して

紹介で就労支援事業の場で仕事をしました。仕事は1～1.5時間パソコンで趣味の写真を絵葉書にし、販売することでした。しかし、収入らしい収入にはならず、往復5時間の通勤と交通費のみがかかりました。自分で楽しむのはよいのですが、就労とは思えず辞めました。それは「そこまです

ることない」でした。せっかく自分がやろうとしていることに水をさされるのです。性格的に何でも一生懸命にしてきましたので、満足感がありませんでした。

仕事は全人生をかけたものです。それを粹の中でやれ、はできません。

●この庭は中村さんに任せる

そんな時に知人が「有償ボランティアで通所事業所の庭仕事で、働いてみないか」と声をかけてくれました。自宅から自転車で10分のところでした。

「この庭は中村さんにまかせる」と言ってもらっています。お年寄りに喜んでもらえるようにと、春はチューリップ、夏にはヒマワリが咲くようになど考えながら作業をしています。「いいね。きれいに咲いたね」と喜んでもらえたときは心からよかったなと思えます。

ここでは仕事を任されています。「自分が役立ち、社会に貢献できている」の実感があります。

写真館



「秋の風景」 撮影・中村成信

情報コーナー 交流の場

宮城●12月6日・20日(木) 午前10:30～午後3:00 / 翼（本人・若年）のつどい  
→泉社会福祉センター  
埼玉●12月15日(土) 午前11:00～午後2:30 / 若年のつどい→越谷市中央市民会館  
富山●12月1日(土) 午後1:00～3:30 / てるてるぼうずの会→サンフォルテ2階 介護実習室  
愛知●12月8日(土) 午後1:30～4:00 /

元氣かい→東海市しあわせ村  
滋賀●12月12日(水) 午前10:00～午後2:00 / ピアカウンセリング→滋賀県成人病センター職員会館  
京都●12月16日(日) 午後1:30～3:30 / 若年のつどい→京都社会福祉会館  
鳥取●12月23日(日祝) 午前11:00～午後3:00 / 若年のつどい「にっこりの会」→地域交流センター笑い庵「笑い庵カフェ&マルシェ」  
広島●12月1日(土) 午前11:00～午後3:30 / 陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター

12月8日(土) 午前11:00～午後3:30 / 陽溜まりの会広島→広島市吉島地域福祉センター  
12月22日(土) 午前11:00～午後3:30 / 陽溜まりの会西部→廿日市市あいプラザ  
宮崎●12月10日(月) 午前11:00～午後2:00 / 本人交流会「今日も語ろう会」→宮崎県支部事務所

詳細は各支部まで